

報道各位

No.20-000075T

2020年8月31日

ヒューマンタッチ株式会社

ヒューマンタッチ総研が独自分析 建設業主要各社の2021年3月期第1四半期決算から見る市場動向

ヒューマンホールディングス株式会社の事業子会社で、人材紹介事業を行うヒューマンタッチ株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役:高本和幸、以下「ヒューマンタッチ」)が運営するヒューマンタッチ総研は、総合工事業(ゼネコン)、土木工事業、電気設備工事業、管工事業、住宅不動産業、プラント・エンジニアリング業の6業種の主要企業各10社(3月期決算)について、2021年3月期第1四半期決算から見る市場動向をまとめました。

【本件のポイント】

- ・6業種別主要企業各10社の2021年3月期第1四半期決算から見る建設市場動向をまとめた
- ・総合工事業と管工事業で厳しい決算となった一方、土木工事業においては比較的好調な決算となった
- ・建設業界では新型コロナウイルス感染症拡大の影響は限定的だが、中長期的には予断を許さない状況か

<総合工事業(ゼネコン)>

■8社が減収、うち6社は減収減益の厳しい決算となる

売上高は8社が前年同期を下回り、このうち6社が純利益ベースで減収減益となっています(図表①)。10社合計を見ると、売上高は前年同期比11.8%減、営業利益が同19.7%減、経常利益が同18.5%減、純利益が同29.8%減となっており、高水準であった前年同期との比較では非常に厳しい結果となっています。

今期の業績は、東京オリンピック・パラリンピック関連需要が一段落して需要の端境期になることに加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、8社が減収・純減益と予想しており、減少率も他の5業種と比べて大きくなっていることから、非常に厳しい経営環境にあると言えます(図表②)。

【図表①】 総合工事業主要10社の2020年3月期第1四半期決算(連結)の実績

企業名	2021年3月期第1四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
鹿島建設	440,742	3.2%	38,907	100.3%	41,480	82.3%	26,454	39.8%	増収増益
大林組	415,109	-7.1%	19,733	-22.3%	22,418	-20.3%	22,758	0.1%	減収増益
清水建設	314,239	-23.6%	13,528	-51.3%	17,557	-42.8%	8,249	-66.0%	減収減益
大成建設	268,784	-23.1%	17,517	-32.4%	20,037	-28.4%	13,238	-38.3%	減収減益
長谷工コーポレーション	171,980	-10.5%	12,028	-30.7%	10,918	-37.8%	7,544	-39.8%	減収減益
前田建設工業	142,635	26.6%	5,634	-36.1%	7,948	-27.7%	3,111	-64.5%	増収減益
五洋建設	114,802	-20.7%	8,180	-0.6%	8,504	4.5%	5,953	0.6%	減収増益
戸田建設	97,145	-18.9%	1,749	-79.2%	3,006	-69.2%	827	-87.8%	減収減益
三井住友建設	89,721	-8.8%	3,302	-26.7%	2,423	-45.6%	1,264	-56.0%	減収減益
フジタ(単体)	78,867	-32.9%	-923	-	-1,101	-	-713	-	減収減益
合計	2,134,024	-11.8%	119,655	-19.7%	133,190	-18.5%	88,685	-29.8%	減収減益

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

※フジタについては非上場のため同社より取得した決算資料より作成

【図表② 総合工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
鹿島建設	1,870,000	-7.0%	111,000	-15.9%	80,000	-22.5%
大林組	1,860,000	-10.3%	119,000	-22.2%	94,000	-16.9%
清水建設	1,485,000	-12.6%	82,500	-38.4%	61,000	-38.4%
大成建設	1,450,000	-17.2%	81,000	-51.7%	56,000	-54.1%
長谷工コーポレーション	800,000	-5.4%	72,500	-15.6%	49,000	-18.1%
前田建設工業	662,000	35.7%	32,400	-4.8%	10,000	-30.3%
五洋建設	493,000	-14.1%	27,500	-17.1%	18,500	-20.8%
戸田建設	497,000	-4.2%	26,000	-26.2%	19,000	-26.5%
三井住友建設	400,000	-15.3%	18,000	-27.3%	10,000	-35.7%
フジタ(単体)			-			

※「-」は未定

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

<土木工事業>

■6 社が増収、10 社合計でも増収増益となり好調な決算

売上高は 6 社が前年同期を上回り、このうち 4 社は増収・純増益となっています(図表③)。10 社合計を見ると、売上高は前年同期比 2.8%増、営業利益が同 127.6%増、経常利益が同 106.7%増、純利益が同 7.8%増となっており、前年同期を上回る高い水準となりました。

今期の業績予想については、公共投資による土木工事は堅調に推移すると見込まれることから 5 社が増収と予想しており、工事量の面では安定した経営環境にあると思われます(図表④)。ただし、純利益については 9 社が前年割れと予想しており、利益面では厳しい状況となりそうです。

【図表③ 土木工事業主要 10 社の 2020 年 3 月期第 1 四半期決算(連結)の実績】

企業名	2021年3月期第1四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
NIPPO	94,576	11.9%	12,099	195.5%	12,914	147.1%	8,410	144.5%	増収増益
前田道路	50,250	0.1%	4,489	93.0%	4,821	82.4%	4,535	-44.8%	増収減益
東亜建設工業	37,289	-3.5%	1,220	-7.2%	1,321	8.8%	862	57.8%	減収増益
東洋建設	34,430	-11.3%	1,548	-30.8%	1,471	-30.5%	895	-35.1%	減収減益
大豊建設	34,015	1.7%	746	2.5%	836	22.8%	508	23.6%	増収増益
日本道路	33,807	8.7%	1,888	281.4%	2,166	209.9%	1,407	-32.8%	増収減益
川田テクノロジーズ	30,222	12.8%	369	-	1,047	-	854	-	増収増益
飛鳥建設	27,891	-2.8%	831	42.4%	817	64.5%	571	81.9%	減収増益
東亜道路工業	16,163	-4.2%	7	-	54	-	-14	-	減収減益
ピーエス三菱	22,630	3.2%	1,092	24.1%	1,095	26.2%	747	42.6%	増収増益
合計	381,273	2.8%	24,289	127.6%	26,542	106.7%	18,775	7.8%	増収増益

※「-」は前期実績がマイナス

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

※川田テクノロジーズの純利益の増減率は、1000%を超えているため「-」と表記

【図表④ 土木工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
NIPPO	440,000	2.5%	41,000	13.2%	28,000	18.7%
前田道路	228,000	-4.1%	18,400	-6.0%	11,500	-38.9%
東亜建設工業	191,000	0.4%	6,800	-14.5%	4,500	-10.1%
東洋建設	175,000	0.1%	8,100	-12.6%	5,000	-13.3%
大豊建設	160,000	-1.7%	9,000	5.7%	6,000	-9.7%
日本道路	151,000	1.5%	8,000	6.4%	5,400	-20.5%
川田テクノロジーズ	115,000	-9.5%	3,500	-48.2%	2,500	-61.2%
飛鳥建設	133,000	-1.4%	5,800	-26.1%	3,300	-35.4%
東亜道路工業	105,000	-3.8%	4,500	-5.3%	3,000	-27.1%
ピーエス三菱	116,000	9.7%	4,200	-14.0%	2,800	-12.9%

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

<電気設備工事業>

■6社が減収、うち5社が減収減益ながら、10社合計ではわずかに増収

売上高は6社が前年同期を下回り、このうち5社が減収・純減益となっています(図表⑤)。10社合計を見ると、売上高は前年同期比0.2%増、営業利益が同2.3%減、経常利益が同2.3%増、純利益が同7.6%減となりました。

今期の業績予想は、純利益ベースで6社が減収減益、2社が増収増益、2社が未定となっています(図表⑥)。売上高の減少率が二桁のマイナスになっているのは1社だけですが、純利益の減少率はそれより大きく、厳しい経営環境にあると見込まれます。

【図表⑤】電気設備工事業主要10社の2020年3月期第1四半期決算(連結)の実績

企業名	2021年3月期第1四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
関電工	120,435	-4.8%	6,676	-4.9%	7,241	-3.3%	4,613	-3.5%	減収減益
きんでん	106,158	-3.6%	3,588	7.0%	4,473	3.6%	2,763	-16.0%	減収減益
協和エクシオ	106,146	15.7%	4,162	4.5%	5,061	31.2%	3,071	31.0%	増収増益
コムシスホールディングス	104,703	-6.4%	3,637	-26.9%	4,182	-24.1%	2,891	-17.6%	減収減益
九電工	79,439	-5.1%	3,862	-17.4%	4,655	-13.8%	3,119	-18.8%	減収減益
トーエネック	49,386	5.7%	2,539	18.1%	2,339	19.2%	1,496	-36.6%	増収減益
中電工	38,029	17.5%	913	-	1,692	138.2%	1,013	36.6%	増収増益
ユアテック	36,329	-6.1%	-1,038	-	-887	-	-860	-	減収赤字幅縮小
住友電設	33,029	-3.8%	2,051	-30.1%	2,281	-27.3%	1,472	-29.7%	減収減益
日本電設工業	21,354	21.4%	-459	-	41	-	1	-	増収増益
合計	695,008	0.2%	25,931	-2.3%	31,078	2.3%	19,579	-7.6%	増収減益

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

【図表⑥】電気設備工事業主要10社の2021年3月期(連結)の業績予想

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
関電工	560,000	-9.1%	30,000	-13.5%	19,200	-14.7%
きんでん	532,000	-9.2%	34,200	-24.0%	23,400	-28.0%
協和エクシオ	525,000	0.1%	32,000	2.9%	21,100	35.2%
コムシスホールディングス	560,000	-0.2%	38,000	-2.4%	25,500	-1.9%
九電工	413,000	-3.7%	32,000	-11.2%	22,500	-14.3%
トーエネック	218,000	-3.0%	10,800	-18.8%	6,400	-31.3%
中電工	185,000	9.5%	8,800	5.6%	6,700	39.7%
ユアテック	-	-	-	-	-	-
住友電設	155,000	-10.4%	9,400	-30.8%	6,200	-36.6%
日本電設工業	-	-	-	-	-	-

※「-」は未定

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

<管工事業>

■7社が減収、うち6社が減収減益、10社合計でも大幅な減収減益の厳しい決算

売上高は7社が前年同期を下回り、このうち6社が減収・純減益となっています(図表⑦)。10社合計を見ると、売上高は前年同期比13.4%減、営業利益が同54.9%減、経常利益が同47.3%減、純利益が同33.7%減となっており、高水準であった前年同期の業績との比較では非常に厳しい結果となっています。

今期の業績についても、予想を出している9社がすべて減収・純減益の予想となっており、総合工事業と同じく非常に厳しい経営環境にあると思われます(図表⑧)。

【図表⑦】 管工事業主要 10 社の 2020 年 3 月期第 1 四半期決算(連結)の実績】

企業名	2021年3月期第1四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
高砂熱学工業	53,511	-26.1%	-528	-	-575	-	-548	-	減収減益
三機工業	38,253	-6.4%	-154	-	66	-87.9%	11	-97.2%	減収減益
大気社	37,188	-19.8%	932	-59.9%	993	-56.9%	1,482	-15.2%	減収減益
ダイダン	34,816	3.9%	2,281	64.4%	2,524	65.2%	1,720	59.5%	増収増益
新日本空調	18,679	-20.6%	94	-	368	80.6%	314	72.4%	減収増益
朝日工業社	16,032	-30.1%	120	-90.2%	225	-83.3%	142	-77.9%	減収減益
日比谷総合設備	15,329	37.7%	419	-	735	-	510	-	増収増益
テクノ菱和	11,444	-14.7%	133	-66.3%	384	-22.3%	243	-23.1%	減収減益
ヤマト	10,637	-7.7%	857	-14.5%	900	-12.8%	596	-13.1%	減収減益
大成温調	10,467	19.2%	-116	-	-120	-	-132	-	増収赤字幅縮小
合計	246,356	-13.4%	4,038	-54.9%	5,500	-47.3%	4,338	-33.7%	減収減益

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

【図表⑧】 管工事業主要 10 社の 2021 年 3 月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
高砂熱学工業	300,000	-6.5%	14,900	-16.8%	12,000	-9.3%
三機工業	200,000	-3.7%	9,000	-15.7%	6,500	-14.2%
大気社	203,000	-9.9%	11,000	-28.8%	8,000	-12.4%
ダイダン	156,000	-7.8%	8,000	-11.7%	5,700	-10.9%
新日本空調	-	-	-	-	-	-
朝日工業社	70,000	-32.7%	500	-86.3%	300	-87.1%
日比谷総合設備	68,000	-10.4%	2,000	-45.8%	1,500	-57.6%
テクノ菱和	57,900	-5.0%	1,770	-58.5%	1,260	-57.0%
ヤマト	46,500	-9.6%	2,400	-34.1%	1,840	-23.3%
大成温調	51,600	-11.1%	1,150	-38.8%	900	-39.1%

※「-」は未定

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

＜住宅・不動産業＞

■6社が減収、うち4社が減収減益、10社合計でも減収減益

売上高は6社が前年同期を下回り、このうち4社が減収・純減益となっています(図表⑨)。10社合計の売上高は前年同期比5.22%減、営業利益は同12.1%減、経常利益は同14.0%減、純利益は同18.3%減となっており、厳しい決算となりました。

2021年3月期の業績予想を発表した6社はすべて減収・純減益の予想になっています(図表⑩)。特に純利益については減少率が大きく、利益面では特に厳しい経営環境になると考えられます。

【図表⑨】 住宅・不動産業主要 10 社の 2020 年 3 月期第 1 四半期決算(連結)の実績】

企業名	2021年3月期第1四半期								傾向
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	
大和ハウス工業	892,981	-12.3%	61,468	-33.5%	61,415	-34.3%	32,933	-49.4%	減収減益
三井不動産	407,025	-4.7%	36,861	-27.6%	29,703	-39.8%	13,770	-58.5%	減収減益
大東建託	355,286	-3.4%	23,627	-15.3%	24,472	-17.2%	16,579	-18.7%	減収減益
飯田グループホールディングス	321,971	7.6%	15,743	-22.2%	16,182	-15.3%	10,939	-14.1%	増収減益
住友不動産	315,959	-5.5%	82,762	1.7%	84,057	3.1%	65,488	17.3%	減収増益
三菱地所	257,481	-3.2%	54,228	15.7%	51,331	16.7%	29,263	10.8%	減収増益
積水化学工業	214,751	-14.0%	1,352	-87.5%	756	-93.3%	-526	-	減収減益
野村不動産ホールディングス	136,486	21.4%	17,900	196.1%	15,417	282.7%	8,833	196.9%	増収増益
スターツコーポレーション	46,525	11.5%	4,377	2.9%	4,363	10.0%	3,129	27.4%	増収増益
タカラレーベン	15,717	28.9%	-194	-	-273	-	-296	-	増収赤字幅縮小
合計	2,964,182	-5.2%	298,124	-12.1%	287,423	-14.0%	180,112	-18.3%	減収減益

出所:各社の2021年3月期第1四半期決算短信より作成

【図表⑩ 住宅・不動産業主要 10 社の 2021 年 3 月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
大和ハウス工業	3,650,000	-16.7%	170,000	-55.4%	105,000	-55.1%
三井不動産	1,850,000	-2.9%	200,000	-28.7%	120,000	-34.8%
大東建託	1,480,000	-6.7%	80,000	-37.5%	56,000	-38.0%
飯田グループホールディングス	-	-	-	-	-	-
住友不動産	880,000	-13.2%	204,000	-12.9%	130,000	-7.8%
三菱地所	1,142,000	-12.3%	185,000	-23.2%	110,000	-25.9%
積水化学工業	1,107,400	-1.9%	70,000	-20.2%	43,500	-26.2%
野村不動産ホールディングス	600,000	-11.3%	61,000	-25.5%	31,000	-36.6%
スターツコーポレーション	190,000	-9.1%	15,500	-35.2%	10,000	-33.6%
タカラレーベン	-	-	-	-	-	-

※「-」は未定

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

<プラント・エンジニアリング業>

■7 社が減収、うち 4 社が減収減益、通期は利益面で厳しい予想

売上高は 7 社が前年同期を下回り、このうち 4 社が減収・純減益となっています(図表⑪)。10 社合計の売上高は前年同期比 8.9%減、営業利益は同 26.1%減、経常利益は同 14.8%減、純利益は同 21.6%減となっており、厳しい決算となっています。

今期については、5 社が増収と予想してはいますが、純利益については 7 社が減益と予想しており、利益面では厳しい環境にあると予想されています。

【図表⑪ プラント・エンジニアリング業主要 10 社の 2020 年 3 月期第 1 四半期決算(連結)の実績】

企業名	2021年3月期第1四半期								
	売上高 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	営業利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	経常利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	純利益 (百万円)	前年 同四半期比 増減率	傾向
日揮	96,858	-9.9%	4,219	46.5%	4,377	-17.8%	1,412	-32.7%	減収減益
千代田化工建設	65,537	-24.2%	5,294	-41.7%	4,843	31.0%	4,475	96.8%	減収増益
栗田工業	60,980	-5.2%	6,128	-40.1%	4,189	-42.6%	4,028	-44.9%	減収減益
東洋エンジニアリング	44,045	-24.6%	562	-71.7%	60	-96.0%	-246	-	減収減益
タクマ	32,289	22.9%	2,217	75.8%	2,526	65.8%	1,870	200.1%	増収増益
太平電業	26,311	13.0%	1,761	-14.1%	1,984	-7.0%	1,201	-15.3%	増収減益
レイズネクスト	23,375	31.6%	1,694	97.2%	1,844	90.7%	1,139	102.3%	増収増益
メタウォーター	14,185	-4.5%	-2,377	-	-2,393	-	-1,861	-	減収減益
富士古河E&C	13,872	-14.0%	403	-2.3%	458	15.9%	277	24.4%	減収増益
田辺工業	7,098	-3.9%	377	60.4%	406	61.2%	247	101.6%	減収増益
合計	384,550	-8.9%	20,278	-26.1%	18,294	-14.8%	12,542	-21.6%	減収減益

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

【図表⑫ プラント・エンジニアリング主要 10 社の 2021 年 3 月期(連結)の業績予想】

企業名	2021年3月期の業績予想					
	売上高 (百万円)	前期比 増減率	営業利益 (百万円)	前期比 増減率	純利益 (百万円)	前期比 増減率
日揮	480,000	-0.2%	20,000	-1.2%	8,000	94.3%
千代田化工建設	280,000	-27.4%	11,000	-58.9%	7,000	-42.5%
栗田工業	268,000	1.2%	22,500	-18.1%	16,000	-12.5%
東洋エンジニアリング	210,000	-4.2%	500	-73.6%	0	-100.0%
タクマ	135,000	0.4%	10,800	12.5%	8,400	12.8%
太平電業	124,000	3.8%	6,700	-29.1%	4,700	-24.1%
レイズネクスト	145,000	3.1%	9,400	-6.4%	6,300	-48.6%
メタウォーター	130,000	1.0%	9,000	9.4%	6,200	9.2%
富士古河E&C	75,000	-8.5%	4,900	-17.4%	3,150	-14.4%
田辺工業	35,000	-7.2%	1,450	-44.7%	1,000	-46.8%

出所:各社の 2021 年 3 月期第 1 四半期決算短信より作成

■ヒューマンタッチ総研所長・高本和幸(ヒューマンタッチ代表取締役)のコメント

2021年3月期第1四半期の決算を見ると、総合工事業と管工事業で非常に厳しい結果となりましたが、土木工事業においては比較的好調な決算となっているところが注目されます。

総合工事業や管工事業では、東京オリンピック・パラリンピック関連の特需も終わり需要の端境期を迎えていることから、今期の業績予想も大幅な減収減益とする企業が多くなっており、厳しい経営環境が続くと思われます。

一方、土木工事業では売上の主力が公共工事であり、社会インフラの老朽化や多発する自然災害への対策が必須なことを背景に政府建設投資は堅調に推移すると予想されることから、経営環境は比較的良好に推移するのではないかと考えられます。

2020年6月の手持ち工事高は30兆7,732億円(前年同月比2.5%増)と高水準を維持しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響も現状では限定的であり、建設業全体としては豊富な手持ち工事高を背景に短期的にはそれほど大きく落ち込まないのではないかと考えられます。

ただし、今後、新型コロナウイルス感染症拡大が長期化して、様々な産業の建設投資が低迷することや、財政状況の逼迫から政府の建設投資が削減される可能性もあり、中長期的には予断を許さない状況だと言えます。



会社概要

ヒューマンタッチ株式会社

- 代表者:代表取締役 高本 和幸 ●所在地:東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1F
- 資本金:1億円 ●コーポレートサイト URL:<https://human-touch.jp/>
- ヒューマンタッチ総研サイト URL:<https://kensetsutenshokunavi.jp/souken/>

＜このレポートに関するお問い合わせ＞

ヒューマンタッチ株式会社 ヒューマンタッチ総研担当
TEL:03-6872-1027 E-mail: htsouken@athuman.com

＜このリリースに関するお問い合わせ＞

ヒューマングループ 広報担当:外川まで
TEL:03-6846-8002 FAX:03-6846-1220 E-mail: kouhou@athuman.com